

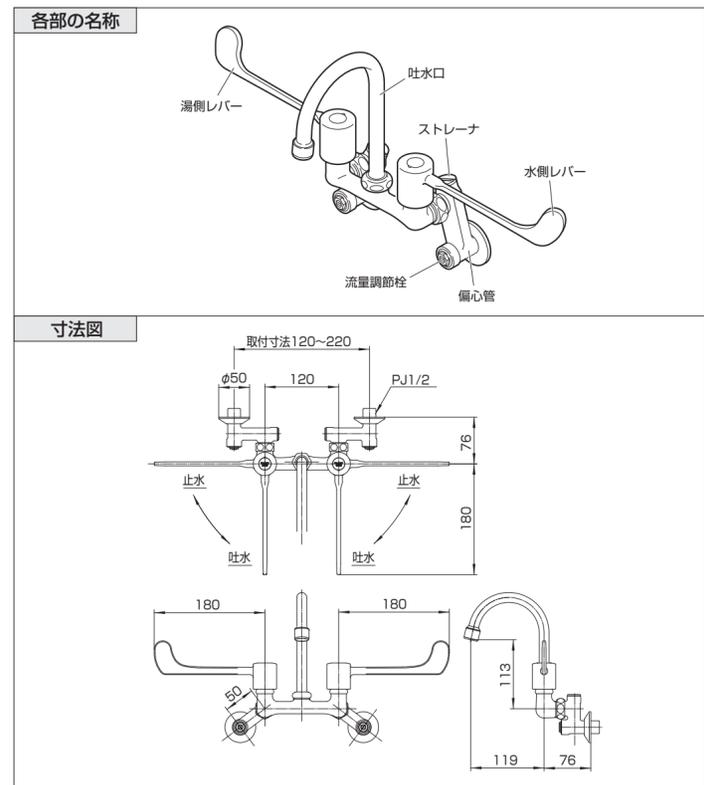
ツーバルブ混合栓

K211H-1-13

施工・取扱説明書

- 施工・ご使用前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工・ご使用ください。
- 施工後、この説明書をお客様へお渡しください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。

本製品について 各部の名称・寸法図



施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

- 注意** ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠ ……「注意しなさい！」（上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）
- ⊘ ……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
- ⊘ ……「分解してはいけません！」
- ❗ ……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

注意

- ⊘ 修理技術者以外の方は、水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 湯水を逆に配管しないでください。正常に作動しないため、やけどをする事があります。なお、逆配管の場合は逆配管アダプター（別売）を使用する事で、逆配管でも表示通りに湯水を使用する事ができます。
- ⊘ 給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。85℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 同梱の部品以外は使用しないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ❗ 他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどのおそれがありますので、やけどのおそれがないところまで水圧変動を抑えた配管設備にしてください。
- ❗ ストレーナの掃除をする際は、いきなりストレーナをゆるめず、流量調節栓を閉めてから行ってください。湯水が噴き出して、やけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ❗ 凍結が予想される地域には、取付けないでください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工について 適切な使用条件

〔水圧について〕

給水・給湯圧力	最低必要水圧(流動時)	最高使用水圧(静止時)
	0.05MPa	0.75MPa

●給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2~0.3MPa程度に減圧してください。
●給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
●給湯圧力は必ず0.05MPa以上にしてください。

〔給湯機について〕

使用最高温度	85℃以下
--------	-------

●給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
●誤操作などによるやけど防止のため、42~60℃給湯をおすすめします。
●給湯に蒸気を使用しないでください。

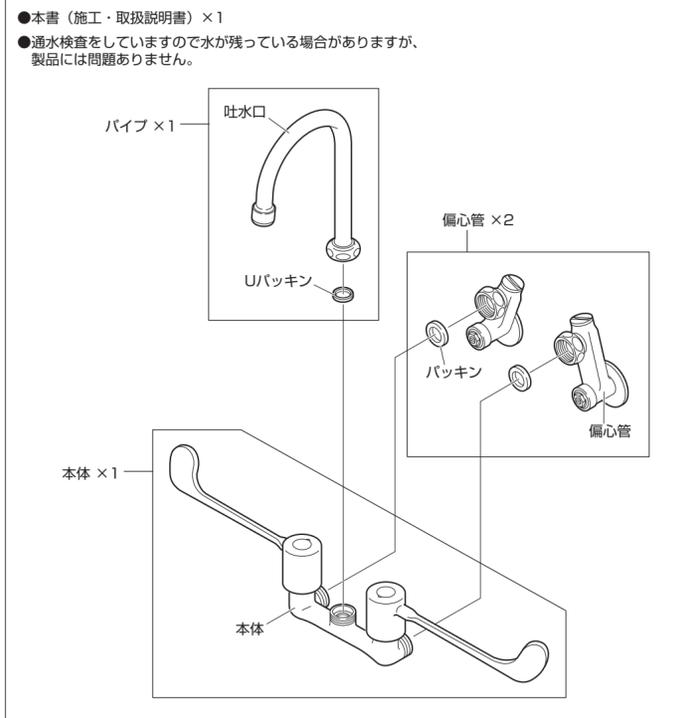
〔水質・用途について〕

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

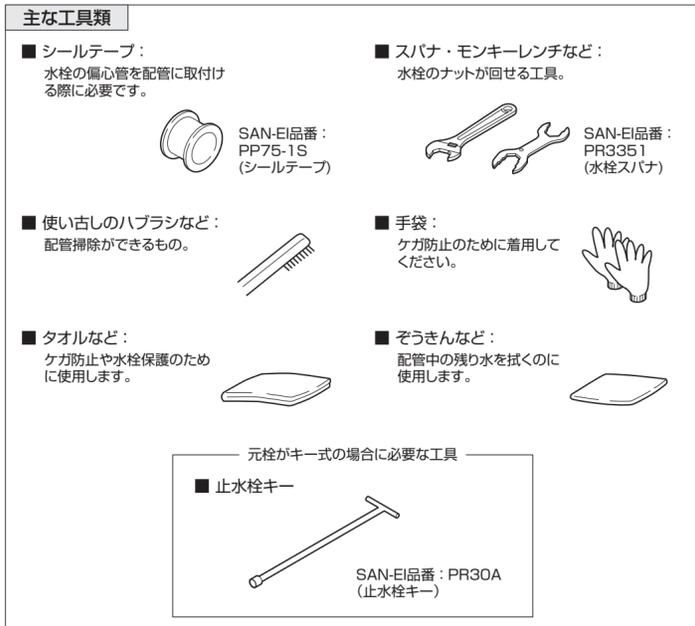
施工について 施工前のご注意

- 給水は、上水道に接続してください。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。
- 配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

施工について 梱包明細



施工について 施工手順



1 配管内の掃除をします。

注意

配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。（元栓の開閉は下記を参照してください。）

水栓金具内にゴミなどが混入すると止水不良や水栓の故障の原因となり、この場合には有償修理となります。

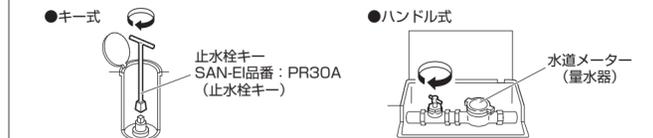
●元栓を開けて、水を止める方法

元栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、元栓を右に回して閉めます。

※元栓を開める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左回しの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■戸建て住宅などの元栓ボックス：

主に玄関やガレージ付近の地面にあります。古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。



■マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス：

主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。

逆配管の場合

通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。このような場合には正常に作動しません。下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

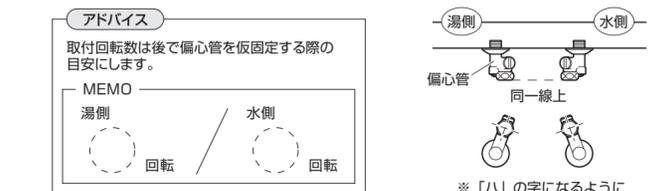
■逆配管アダプター（別売）による対応

逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。



2 偏心管の取付回転を確認します。

偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。



3 偏心管にシールテープを巻きます。

ねじに向かって右向きに、10回程度少し引つ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。

注意 シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

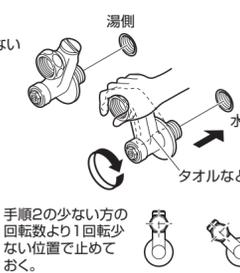
アドバイス シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。シールテープ幅に合わせて巻付けてください。

4 偏心管を仮固定します。

手順2で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともにまわして止めておきます。

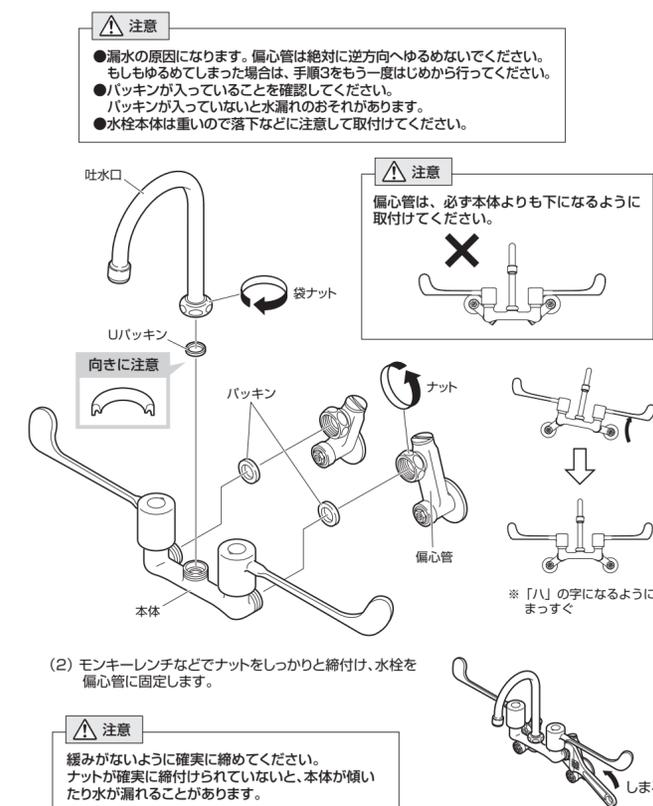
注意 漏水の原因になります。偏心管は絶対に逆方向へゆるめしないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順3をもう一度はじめから行ってください。

アドバイス 右記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。



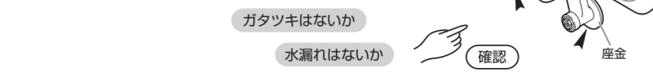
5 水栓本体を取付けます。

(1) 水栓本体と偏心管の間に、パッキンが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。



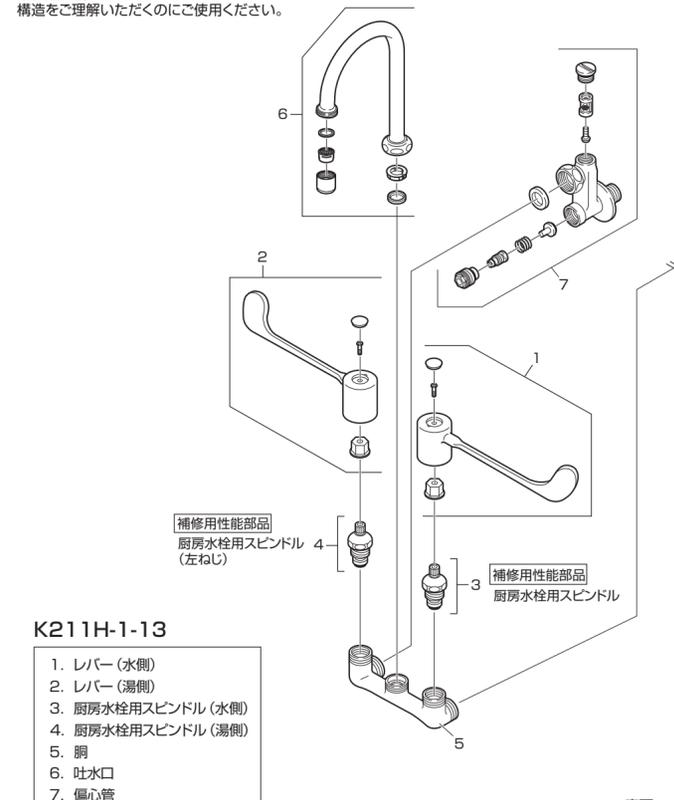
6 ガタツキ・水漏れチェックをします。

接続後、各部にガタツキがないか必ず確認してください。ガタツキの確認後、元栓を開いて各部に水漏れがないか必ず確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめからやり直してください。最後に座金を壁面に締付けて完了です。



こんなときは 本製品の構造

本製品の構造を表したイラストです。構造をご理解いただくのにご使用ください。



ご使用について ご使用に関する安全上のご注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

警告 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」

注意 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」

「注意しなさい！」（上記の「注意」「警告」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）

「してはけません！」（一般的な禁止記号です。）

「分解してはけません！」

「指示した場所に触れてはけません！」

「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

警告

小さいお子様だけのご使用は、避けてください。やけど・けがをするおそれがあります。

注意

朝一番の使い始めの水は飲まずに別の用途にお使いください。しばらく使われないと、水栓内の水は消毒用の塩素がなくなってしまい、におうことがあります。

製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や漏水の原因になります。

分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナの掃除をする際は、いきなりストレーナをゆるめずに、流量調節栓または元栓を開めてから行ってください。湯水が噴き出して、やけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される場所でご使用になる場合は、凍結予防を確実に実施してください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

●水栓の左側には直接肌を触れないでください。給湯用のため高温になっており、やけどをするおそれがあります。

●高温の湯をお使いのときは、吐水口に直接肌を触れないでください。吐水口は高温になっているのでやけどをするおそれがあります。

（給湯器の設定温度について）

給湯温度は最高85℃まででお使いください。85℃以上でご使用になると器具の寿命が短くなります。なお、誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。

湯を使用する時は水側レバーから開けてください。その後、徐々に湯側レバーを開き、温度および吐水量を調節してください。次に使用する際、湯側レバーを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。

湯を止める時は、必ず湯側のレバーから閉めてください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

レバーは、ゆっくり回してください。レバーを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがありますのでご注意ください。やけどのおそれがあります。

日頃から、ときどき吐水口を回してください。吐水口を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れの原因になります。

定期的な、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

●長期使用しない時は、流量調節栓または配管中の元栓を開めてください。水漏れなどの事故の原因になります。

（吐水口先端に浄水器を取付ける場合）

●止水機構を持った浄水器などは、取付けできません。吐水口から漏水するおそれがあります。

●解氷機やアースを水栓に通電しないでください。水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

●吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないでください。摩耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に接合部から微量の水がにじみ出るおそれがあります。

（樹脂メッキ付部品の場合）

●樹脂メッキ部品には、下記のことを行わないでください。

●鋭利な物を当てる ●衝撃を与える ●落とす

●メッキの表面が割れ、ケガをするおそれがあります。万が一メッキの表面が割れた場合は、早めに新しい部品に交換してください。

●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類 ※特に酸性洗剤はメッキを侵します。

●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類

●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤

●ナイロンたわし・メラミンフォームなど

●本体の割れや変色変質の原因となります。

●洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

ご使用について 吐水・止水・温度調節

湯を使用する時は水側レバーを開いてから徐々に湯側レバーを開き、温度および吐水量を調節してください。湯側レバーを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。

使用後

必ず湯側のレバーから閉めてください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

湯側レバーをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を42～60℃に設定した後、水栓側の湯側レバーをまわしてください。

（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するが、給湯機の温度設定を下げてください。

高温の湯が出ないときは？

湯側レバーをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を42～60℃に設定した後、水栓側の湯側レバーをまわしてください。

（注意）

高温の湯を使用した後は、給湯リモコンを適温に戻してしばらく水を流してください。

（着火）

（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するが、給湯機の温度設定を下げてください。

ご使用について 流量調節

ドライバーで回す事により流量を調節したり、配管からの水を止める事ができます。

●流量調節栓

●流量が少なくなる

●流量が多くなる

●マイナスドライバーなど

ご使用について 凍結予防

凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

●水栓より少量の水を出してください。（目安として1分間に牛乳ビン1本程度）

●配管部などに保温材を巻いてください。

●屋内の窓を閉めるなどで水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。

※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。

日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておく、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

●柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

●汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

注意

●本体をお手入れする際は、次のものは絶対に使用しないでください。使用してはいけないもの

●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類 ※特に酸性洗剤はメッキを侵します。

●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類

●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤

●ナイロンたわし・メラミンフォームなど

●本体の割れや変色変質の原因となります。

●洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

日頃のお手入れ ストレーナ・吐水口の掃除

ストレーナ・吐水口の汚れを放置しておく、十分な機能を発揮できないことがあります。快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。（近所で水道工事があつたり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。）

1 ■ストレーナを掃除する場合

…流量調節栓を右にまわし、止水します。

■吐水口を掃除する場合

…レバーを止水位置にします。

2 ストレーナ

2 ストレーナ

1 レバー

2 泡沫器本体

3 掃除

3 掃除

再使用時

ストレーナ・泡沫器本体が確実に閉まっているか確認してください。

定期的な点検 可動部分の点検

可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので、「保証とアフターサービス」を参照し、修理をご依頼ください。吐水口・流量調節栓の点検については下記を参照ください。

日頃から、ときどき吐水口・流量調節栓を回してください。（月1回を目安）

流量調節栓を回す際は設定位置を確認し、回した後に元の位置に戻してください。

吐水口・流量調節栓を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。

吐水口・流量調節栓が回らなくなった場合は、「保証とアフターサービス」を参照し、修理をご依頼ください。

定期的な点検 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ

定期的な、配管周りの水漏れがないか確認してください。（年2回を目安）

定期的な、器具のガタツキがないか確認してください。（年2回を目安）

劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

漏水を確認した場合は、配管中の元栓を開めてください。修理の依頼をされる場合は「保証とアフターサービス」を参照してください。

こんなときは 故障？ その前に

修理をご依頼される前に、次の表に従って点検してください。

現象	点検項目	処置
流量が少ない	流量調節栓は開いていますか。 ゴミづまりはありませんか。	流量調節栓で流量を調節する。参照：「流量調節」 ストレーナ・吐水口の掃除をする。参照：「ストレーナ・吐水口の掃除」
高温しかでない	水側の流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。参照：「流量調節」
低温しかでない	給湯機から湯がきていますか。 湯側の流量調節栓は開いていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。参照：「吐水・止水・温度調節」 流量調節栓で流量を調節する。参照：「流量調節」
温度調節がうまくできない	給湯機から湯がきていますか。 ゴミづまりはありませんか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。参照：「吐水・止水・温度調節」 ストレーナ・吐水口の掃除をする。参照：「ストレーナ・吐水口の掃除」

以上の点検を実施されても、不具合がなくなるならない場合はお手数ですがお買上げの販売店(工事店)に修理をご依頼ください。

●修理される方は次の表に従って点検してください。

現象	点検項目
老朽化や使用環境により部品の劣化やゴミかみのおそれがあります。各接合部からの水漏れの場合は、水漏れ箇所の部品を交換してください。参照：表面「本製品の構造」	
パッキン部の経年劣化により、止水時のレバー位置が変わる可能性があります。レバーを閉めても止水しない場合は、下記手順に従いケレブを交換してください。	
湯側・水側のレバーを閉じても水が漏れる	① 止水栓を閉める。 ② レバーをはずし、厨房水栓用スピンドルを交換する。(図1参照) ③ レバーまで組付けた状態で、レバーを内側に当たりに戻す。 ④ 当たりの位置でレバーとインサートを一旦はずし、インサートを図2の位置に取付ける。 ⑤ レバーを図3のように取り付け固定する。 ⑥ 止水栓を開き、レバー閉閉時に壁やレバー同士が接触しないこと、漏水などの異常が無いことを確認する。

図1 ○キャップ
●なべ小ねじ
レバー
図2 インサート
●厨房水栓用スピンドル
図3 (上から見た図)
インサート
レバー
端面を水平にする

漏水した場合の処置

漏水した場合は、配管中の元栓を開めてください。

元栓の開め方

元栓ボックス(メーターボックス)のふたを開け、元栓を右に回して閉めます。
※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉栓後は近隣の水道などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左回しの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■戸建て住宅などの元栓ボックス：
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。

■マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス：
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスなどのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。

●キー式
●ハンドル式

止水栓キー
SAN-EI品番：
PR30A
(止水栓キー)

水道メーター
(量水器)

水道メーター(量水器)

アフターサービス

〔補修用性能部品の供給期間〕

この製品の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品であり、使用期間中に取替える可能性が高いもの）の供給期間は製造中止後10年です。

〔修理の依頼と部品交換の依頼について〕

●修理依頼と部品交換依頼先：
お求めの販売店（工事店）又は当社

●連絡していただきたい内容：
■住所、氏名、電話番号
■品番、品名
■お買上げ（お取付け）年月日
■故障内容、異常の状況（水漏れ箇所の説明など）、部品交換の依頼
■訪問希望日

品番を確認するには水栓の右側下部に貼付のシールをご確認ください。

(例) 品番
K211H-1-13
1234567890 G
製造番号

●当社の修理および部品交換料金は「技術料」＋「部品代」＋「出張料」で構成されています。

「技術料」
診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用。

「部品代」
修理および部品交換に使用した部品代。（無料修理で交換した古い部品・製品は当社の所有になります。）

「出張料」
製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用。

〔部品の交換〕

●止水部やパッキンが摩耗・劣化すると水漏れの原因となります。この場合、該当部品の交換が必要です。

〔部品のご購入や修理の依頼、ご相談は〕

●まずは、お求めの販売店（工事店）へご相談ください。ご不明な場合は当社カスタマーセンターへお問合せください。

SANEI 株式会社

〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号
カスタマーセンター ☎0120-06-9721
受付時間 9：00～17：30(土日祝除く)
ホームページ <http://www.san-ei-web.co.jp>